ISSN 1883-3179

南山アーカイブズニュース

Nanzan Archives News

第２号　2009 年 12 月 25 日

目　次

◇ 南山小学校　温故知新 ……………阿部泰久………2

◇ アーカイブズと私 ……………………中矢俊博………3

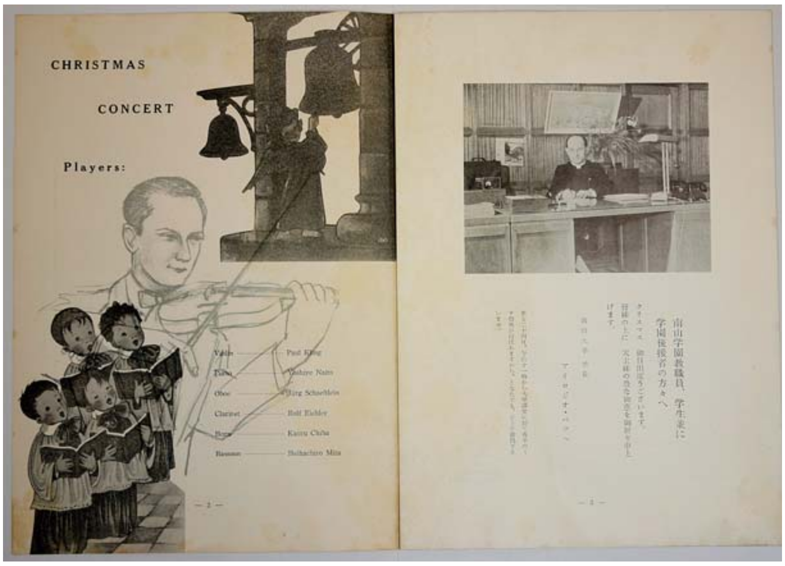
◇ 史資料紹介 ………………………………會澤俊三………4

南山・名古屋カトリック少年団

◇ 南山発見 …………………………………………永井英治……7

南山大学第２代学長沼澤喜市のイメージ

◇ 記念誌・史料集などの紹介２…………………………8



南山クリスマス音楽会　1952 年 12 月 20 日

南山学園教職員、学生並びに学園後援者に配布された式次第。

南山小学校　温故知新

阿部泰久

2008 年 3 月 22 日、ここ五軒家町 17 番地に南山大学附属小学校が開校しました。これは、南山学園にとっては復活でもあります。思えば、南山中学校の設立（1932 年開校）からわずか 2 年後、小学校開設を望む声が、地元有識者らによりライネルス師（南山学園創立者）の元に届けられ、これを真摯に受け止めたライネルス師は、奔走の末、1936 年に南山小学校を設立しました。

設立された南山小学校の教育は、「真教育」と名づけられ、

（1）　児童中心の教育（自学自習の重視）

「どの児童にも隠れた宝石のやうな独創性や眠つた能力が潜んでゐます。此の児童一人一人の独創性を見つけ能力を呼び醒まし、それに基く彼等の自発的な活動を中心として、新しいものゝ発見、未知の世界への探求へと導くやうな教育を根本に致します。従つて教へ込む教育ではなくて学ばせる教育であります。児童自ら観察し、実験し、比較し、思考して、自ら帰結に達し、原理を発見するやうに仕向ける教育なのであります。」（1936 年 1 月「南山小学校入学案内」、『南山高等中学校四十年史』、1974 年、46 頁）

（2）　少人数教育

（3）　家庭との緊密な連絡体制

「教育の完成が学校と家庭との協力に俟つべきことは勿論であります。特に本校は此の連絡を緊密にし、学校の教育は直ちに家庭に於て実践され、家庭の希望は直ちに学校に於て達成され、両輪両翼の関係に於て、教育効果の徹底に並進したいと思います。即ち教育に関しては、教師は家庭の一員であり、父兄は学校の一員であるという程度に連絡親密を進めて、生徒の真の幸福増進を期するものであります。」（1932 年 2 月「南山中学校生徒募集案内」、『南山高等中学校四十年史』、33 頁）

等を特色とし、当時としても画期的な私立学校として注目されていたのはご承知のとおりです。そして、この理念は 21 世紀の今も生きています。それは、

本校の三つの柱

一つ目は、「たしかな学力と人間力を身につける」

二つ目の柱は「小・中・高・大の一貫教育」

三つ目の柱は「学校と家庭との教育連携」

に具現化されています。まさに現代に生きる南山学園の理念であります。

「故（ふる）きを温（たず）ね、新しきを知る」、ご存じの通り『論語』為政篇から、昔のことを研究して、そこから新しい知識や道理を見つけ出すことです。私たちにとって「故き」とはライネルス師の唱えたドイツ新教育運動の理念であり、教育の現場が混乱している現在の状況を切りひらくべくもう一度原点に立ち返って見直していこうという思いです。現在の小学校には戦前の小学校他の具体的な資料は存在しません。しかし、今の校舎は南山小学校の建っていた敷地であり、近隣の皆様にとっては昔をよみがえらせた想いでもありましょう。そして現在の子どもたちがライネルス師に培われた理念を基にした教育活動でしっかりとした学校生活を具現化していくことを着実に実行していくことで、南山学園を現在に蘇らせていきたいと考えます。そして、教育実践を積み重ねていき、貴重な財産として後世に残していきたいと思います。「蘇った南山スピリット」をさらに磨いて後世に伝えていきたいと思います。

（南山大学附属小学校教頭）

アーカイブズと私

中矢俊博

南山大学史料室からアーカイブズに関する小文を寄稿するようにとの依頼を受けた。私は経済学の歴史を専攻していることもあってか、他の研究者に比べるとアーカイブズに関心を持っているし、大経済学者の書いたマニュスクリプト（手書き原稿）に接する機会にも恵まれているように感じる。以下では、私がイギリス滞在中に、ケンブリッジ大学で出会ったマニュスクリプトについて、感想も交えて綴ってみることにする。

1回目の経験は1987年の夏に訪れた。その当時ロンドンに滞在していた私に、リカードウ研究で名高い羽鳥卓也先生から、リカードウの『マルサス評注』の調査をしてほしいとの依頼が届く。この『評注』は、リカードウのライバルであったマルサスの『経済学原理』（1820年）の一文ごとに注をつけて、詳しくコメントしていくといったものである。リカードウが3年前に書いた『経済学と課税の原理』（1817年）への批判の書がマルサスの書物なので、まさに批判に対する反批判を綴ったものがリカードウの『評注』なのであった。

その『評注』の複雑な出版事情については、拙著『ケンブリッジ経済学研究』（1997年）に譲りたいが、所望のマニュスクリプトがケンブリッジのユニヴァシティ・ライブラリーに所蔵されていることを知った私は、朝早くからそこに出向くことになった。私は図書館の入口でかなり厳重な手続きを済ませた後、係員とともに地下にあるアーカイブズに向かう。当然のことであるが、貴重な原資料を保存するために、その部屋にはノートと鉛筆しか持っていくことはできない。私は図書館司書にリカードウの『評注』を依頼し、椅子に座って待った。数分後、目の前にリカードウの手書き原稿が現れた時の感動は言葉では言い表せない。そして、それから8時間ほどの至福の時間は、あっという間に過ぎていった。

2回目の経験は、1993年の夏のことである。ケインズの母校キングズ・カレッジのモダン・アーカイブズ・センターに所蔵されているケインズ・ペイパーズを調査するために、そこに1週間ほど通うことになった。目的は、ケインズが若き日に、ブルームズベリー・グループの集まりなどで朗読した、手書き原稿を調査するためであった。カウンターで申込書に必要なことを記入すると、司書が貴重な資料を持ってきてくれた。

ケインズの字は、先に調査したリカードウの端正な字とは違って、ミミズが這ったようなと言っては申し訳ないが、それに近いような読みにくい字であった。コピーが許されていなかったので、私は必死になって ”Science and Art” というマニュスクリプトを解読しながら、ノートに書き写していった。どうしても読めない字は、私と同じような作業をしている研究者たちに聞きながら進めた。

1週間ほどの間に、私のノートは、ケインズの貴重な資料で一杯になった。大事な ”Science and Art” を始め、ケインズが最も尊敬している経済学者であったマルサスの没後100年祭を開催するためにジーザス・カレッジの学寮長と掛け合った時の手紙、結婚前にリディアへの愛を打ち明けた手紙や結婚証明書等々であった。そうそう、ケインズのゴルフ・スコアなども、私の関心を引き付けた。経済学をはじめ多くの面で、華々しい活躍をおこなったケインズではあったが、ゴルフはあまりうまくはなかったようである。いつも110前後のスコアばかりであった。アーカイブズには、誰もがまだ発見していない宝物が、一杯詰まっているのである。

（南山大学経済学部教授）

史資料紹介

南山・名古屋カトリック少年団

會澤俊三

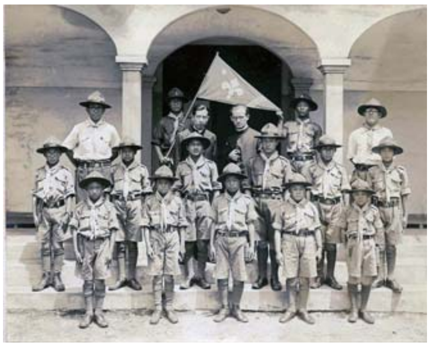
1931年9月13日、日本初のカトリック・ボーイスカウトが静岡で、続いて神戸にも結成された。1932年の南山中学校創立の時期に、創立者ライネルスの教区長座である主税町教会に着任した山本隆伝道士は、「ボーイスカウトを作って、少年達を自然と親しませたい。そして天主様のお創りになったものをよく観察するやう教えたい」と、その組織作りを折にふれ信者たちと話していた。1933年に派遣来日の神言会会員アロイジオ・パッヘ（Alois Pache）が南山中学校英語教諭に着任すると、この問題が具体化することになった。

パッヘは早くよりボーイスカウトを教会の少年指導に応用する理想をもっていた。来日前、ライネルス校長の勧めで、英国ロンドンの中学校で教鞭をとり、また大学で現代語学を修める傍ら、ボーイスカウトの本場、イギリスのカトリック・ボーイスカウト組織と運動とをつぶさに研究して来た。

パッヘを主軸に、南山中学校に新しい課外活動の分野として、ボーイスカウトを開くことになった。当時はカトリック教義を学課に織り込んで公然と宗教教育を行なうことができなかったので、カトリック信者を中心とするボーイスカウトは、宗教を表明して行動するためには最良の賢明な組織であったにちがいない。幸いに、名古屋市少年団連盟長高松定一が南山中学校顧問であったし、連盟の指導者たちは欣然と結成の世話と指導にあたった。

パッヘは、日本語修得の約一年間、主税町教会の山本伝道師たちと討議を重ね、南山中学校のボーイスカウトは、カトリック生徒のスカウトとして、1934年7月27日から一週間、豊岡の神言会本部修道院近くの土岐川に沿う松林中に野営して、最初の訓練を行なった。参加者はカトリック生徒11名（山本伝道士の息子二人と甥二人を含む）と洗礼志願者2名で、当時名古屋教区神学生だった牧野房男(後の第四代南山中学校長)が精神指導にあたった。

パッヘの着想では、単なる英国式のボーイスカウトを育成するのが狙いではなかった。土岐川畔野営も、ドイツの学校で休暇に行なわれていた家庭的なキャンプ Schül-Landheim を採用し、家族主義精神こそ誇るべき教育精神であり、家族的塾を新しい仕組みで生かしてみたいと考えていたのであった。同じ考えで、1939年の新学年度から南山中学校で班訓練制度を試みた。これは Oxford House System と日本の塾組織とを融和したものであった。



第１回キャンプ記念　名古屋・南山カトリック少年団
（山本隆氏旧蔵、南山学園史料室所蔵）

このボーイスカウトの宣誓式は、1934年10月28日に名古屋主税町カトリック教会で挙行された。まだ正規の少年団として連盟に加入するに至っていなかったが、名称は名古屋カトリック・ボーイスカウト（名古屋カトリック少年団）で、団長パッヘのもとに「つばめ」「はと」の二班が結成され、各班長と全団員が宣誓した。本部はしばらく主税町教会におかれたが、集会室は南山中学校校地内のピオ十一世館（中学校付属教師館・学園付属聖堂）に置

かれ、1937 年から南山小学校の一室をかりてスカウト作業室を設け、ピオ十一世館のスカウト室を本部室とした。

主税町教会前で　ボーイスカウト宣誓式記念
団旗の左ライネルス総長　右パッヘ団長　右端牧野房男
（『名古屋教区報』第 5 号 1937 年 6 月 20 日）

1935 年 1 月 13 日に挙行された南山中学校「至誠堂」（体育館・講堂）落成祝別式には、団員一同制服で来賓接待をかねて参列。その日の午後、特に来賓のためにクリスマス祝賀会をあらためて催したのをはじめ、1937 年 3 月～ 5 月に名古屋で開かれた汎太平洋平和博覧会（世界 29 ヵ国が参加、入場者約 480 万人）に活動するスカウトガイドのため、名古屋市の懇請でパッヘが 11 月から 2 月まで毎週二回、名古屋市役所で英語講習会（受講者 90 人余）を開くなど、早くからその特徴を発揮し、南山生のカトリック少年団員鷲山馨の英語での外国人観光客のためのガイドは好評であった。1937 年 2 月には少年団名古屋連盟から団員高松博（南山中三年）が表彰され、4 月名古屋市昭和堂で開催の全国指導者大会（参加者約 500 人）にはパッヘ団長、濱田隊長、安田貞治（南山中五年）、姜昌二（南山中四年）の団員 2 人が参加、大日本少年団連盟理事長二荒芳徳らとの交歓は人目をひいた。また 1938 年のヒトラーユーゲント歓迎式と歓迎野営にも参加している。

1938 年 1 月 9 日、下飯田カトリック教会に幼年健児隊が結団式をあげたのを機会に、南山中学校生徒以外のカトリック団員も加えて更に発展を期することになり、1940 年 4 月、主税町カトリック教会に本部とホームを移した。当時の団員は 35 名、うち南山中学校生徒 3 名、南山小学校生徒 2 名。総長はライネルス、団長はパッヘ、隊長は高松博で、班長 3 名がいた。同年 7 月に「愛国カトリック健児団」と改称したが、1944 年に団の解散命令が発せられた。しかしこのカトリック少年団は、戦後、主税町教会主任司祭 Ferdinand Mühlbauer により復活され、1951 年 3 月 1 日に「名古屋第十三隊主税町カトリック少年団」と改称した。

＊　＊　＊

家族主義教育　　アロイジオ・パッへ

私がまだ故郷に居た時は、度々歐米に於て大いに論點となつた、個人を元にした教育組織に對して、日本に於ける家族主義的教育の好結果に就て讀んだ事があつた。所がいざ日本に渡つて見ると、現在日本の教育には昔の純粋な家族的「塾」が少しも残つてゐない。のみならず日本教育は我々歐洲人が經驗により最善なりとは認めてゐない目的に向つて、全力を擧げて進みつゝあるのを見て、少からず失望したのであります。私は何回も自問しました「何故日本人は教育界に於て利用し得べき最善の指導方針を以て、即ち家族を土臺として―教育として最も自然なる、從つて最も永續的なる―其獨特の組織を發達させないのだらうか」と。私は時として、日本の學生が洋裝にて、然し様子丈は全然日本式で日本服を着た人々の住む、西洋建物の間を通つてゐるのを見て、全く陰欝な気になる事がある。日本の教育には何故純粋の日本方針と精神とが含まれてゐないだらうか。

外國教育の長所を取入れるとしても―日本は國際関係を脱する事は出來ず、又國民が現今政治的、經濟的、道義的に相會する舞臺に立たなくてはならぬのだが―日本教育は純粋の日本式になれるのである。即ち其猶健全なる家族制度に基きて（他に見ざる日本の所有物の一なる）―教育に利用し得べき最も善き基礎―日本式になれるのである。確かに此は一層よく彼等の必要欲望を充し、同時に日本以外の世界よりは賞讃を受くるであろう。

私が「シュール、ラントハイム」（一種の獨逸式家族的休暇利用のキャンプ）に於て、一團の南山中學生徒と與に多治見神言修道院に、私の夏の一部ー休暇ーを過した時に―勿論萬事日本人の心に適合する様な仕組にしたー私は如何に此様な家族的教育が

日本に適當なるか、日本教育の全組織が家族的にされ、其結果日本青年全体が一大家族を爲す様になつたならば、其効果は實に驚くべきものであるのだがと痛切に感じたものである。

此に於て私は南山中學が眞の家族主義を發達させ、かくて眞の日本教育の目的に向つて規範を示したらば､國家に對する一大奉仕だらうと思つた。(『南山』第５号、1936 年 10 月）

元氣な新入生を迎えて　春輝く南山學園

信者の在中學生は十二名

（中略）

新教育システム獨自の精神教育で注目されてゐる南中に偉力がまた一つ、英語擔當のパッヘ師の提唱によつてオクスフオードに行はれるハウス・システムと我が國學の塾組織とを融和した『斑（ママ）訓練』制度を、今春から実施することゝなつた。全校生を縦に八斑（ママ）に分ち各斑（ママ）は各學年各學級より五、六名の生徒を糾合して各斑（ママ）となし、班長、副班長に教諭二、三名を擔任してこれを中心として渾然一體となり、家族的愛のもとに則實訓育、人格の陶冶をしようといふのでその成果が期待されてゐる。（『名古屋教区報』第３巻第６号、1939 年４月 23 日)

（前略)昭和十四年四月､訓練班が組織された。(中略）学業操行の進歩向上をはかる学校縦連組織である。(中略)班名は曰く努力班曰く中庸班等々と。(中略）各班を襟章の色で識別した。以後諸行事に班対抗の競争が行われ学業体育徳育の切磋琢磨を行う事となつた。之によつて当時の南山の特色たる家族的雰囲気は一層促進された事は事実である。(後略)(近藤日出雄「南山よいとこ」『南山常磐会会誌』第２号、1953 年 11 月、のち『南山高等中学校四十年史』、1974 年、再録）

僕等はうれし　輝く團旗祝別式

名古屋カトリツク少年團

名古屋カトリック少年團待望の團旗祝別式が綠濃き五月九日午後一時から主税町聖堂において行はれ、ライネルス教區区長の御手により輝きの團旗は祝せられ、いと嚴粛な気滿つるうちに教區長さまにはスカウトに對する慈愛のこもる訓話ありて後、團旗は隊長に授與され、引きつゞき続き幼稚園に設けられた會場で新しく入團した左の八名（中略）諸君の宣誓式が行はれ、スカウトの一員として天主に對し世界のスカウトに對し宣誓するところあり、パッヘ團長、高松副團長の訓示、健兒代表の角君の答辭、來賓堀川判事先生の懇切な祝辭あり、さらに濱田隊長のスカウトの使命遂行に対して答へるところあり、一同少年團歌『花はかほるよ』を合唱し團の前途を祝福して彌榮を三唱して式を閉ぢる。（後略）(『名古屋教区報』第５号、1937 年６月 20 日）

キャンプ訓練（『名古屋教区報』第３巻第 10 号）

朝露に拜すミサも嬉しき

スカウト野營訓練　入船山と長良川畔で

パッヘ師を團長とする名古屋カトリック少年團の夏期訓練は、去る八月二十一日―三日の第一回を名古屋市内東山公園に近き入船山に、同二十五日―八日の第二回を岐阜市外長良川畔にて行はれた｡南中､主税町､千種各教會よりの參加團員約二十名に達し､先づ第一野營は見習健兒の訓練から始まる。青葉かげ涼しく茂る入舟山の林間は正に僕等の世界、都塵から遠く離れて小鳥の聲蟬の音も清々しい中に五ヶのテントが張りめぐらされて、ひらめく日の丸も爽やかだ。

パッヘ團長自ら指導のもとに、朝は野外のミサ聖祭、三度の飯盒炊爨から各個訓練、夕されば營火の集ひなど快いキャンプを樂しむ。(後略）(『名古屋教区報』第３巻第 10 号、1939 年９月３日）

（南山学園史料委員会委員）

南山発見

南山大学第２代学長沼澤喜市のイメージ

永井英治

1962年に発行された『三好町誌』のあとがきに、「南山大学々長沼沢博士」への謝辞が記されている。沼澤が編集に関与したわけではないので、史料の閲覧などで便宜を図ってもらったことに対する謝辞と考えられるが、三好町域に関わる史料と南山大学長沼澤喜市の接点は浮かんでこない。次に考えられるのは、編纂内容について教示を受けたことへの謝辞である。1957年、沼澤は、愛知県にある田県神社の祭礼についての研究を発表している（沼澤喜市「田県神社の豊年祭」『民族学研究』第21巻第1･2号、1957年５月）。それは沼澤にとってcase studyであったのかもしれないが、神事・祭礼の研究者として知られることになり、三好町域で行なわれる祭礼について質問を受け、それに答えるというやりとりがあったのかもしれない。とすれば、ここでの沼澤は、学長としてではなく、ひとりの研究者として対応したことになる。

このような目で学長時代の沼澤を見直してみると、学長という職務の一方で研究への強い渇望があったように思われる。沼澤は、1964年に行なわれた東ニューギニア学術調査に一人の研究者として参加しただけではなく、1966年には単独で第２次調査に出かけているのである。

『南山学園史料集４南山大学インターナショナルディヴィジョン史料集下』には、沼澤が学長としての職務に慣れてきたという感想を周囲に抱かせたとする史料が収録されている（史料80）。沼澤にとって学長という職務は想定外のものであったのかもしれない。ただ、ウィルヘルム・シュミットの下で研究していたときから、彼の存在は日本の人類学研究者に知られており、帰国後の活躍も当然期待されていたであろう。沼澤が1949年９月開設の南山大学人類学民族学研究所長となったのは、ごく自然なことと見られたかもしれない。しかし、南山大学設置と同時に文学部長就任、1951年３月には南山学園理事、そして1957年４月には第２代学長就任と、大学の業務における重責は沼澤に集中していった。

現在、南山大学人類学研究所の書庫に保管されている沼澤喜市関係史料の中には、彼の手稿が多く含まれている。そこには、学長としての挨拶の下書きと思われる草稿も多く残されており、沼澤の慎重な性格が窺われる。中には、出版を考えていたのではないかと思われるような大部の講義ノートも含まれている。ほとんどがペン書きで､筆圧はかなり強く、流麗な筆書きを身に付けた人の文字ではない。手首に相当の負担がかかっていたであろう、緊張した文字である。もとより私は生前の沼澤について知る由もなく、いくつかの文献や写真、生前の沼澤を知る人々から聞く話によって想像するのみであるが、彼の自筆草稿は、私が勝手に作り上げていたイメージから遠いものではなく、むしろ、それらの自筆草稿も沼澤についてのイメージを形成する一部となっている。

南山大学は沼澤学長の時代に大きく変化し、また困難な時代を経験した。南山大学が五軒家町から現在の名古屋キャンパスに移転し、学生運動がもっとも高揚した時期に、沼澤は学長であった。沼澤に強いられた緊張感は並大抵のものではなかったであろう。とすれば、沼澤にとって研究のための時間は、それらの重責から解放される貴重な時間ではなかったかと思われるのである。

（南山大学史料室）

≪記念誌・史料集などの紹介２≫

1. 家田足穂ほか編『南山高等中学校四十年史』1974 年 11 月 1 日、南山高等中学校
   南山中学校（旧制）の創立から発展の過程について刊行物を中心に史料を収録。
2. 南山大学外国語学部編『南山大学外国語学部十周年史』
   南山大学外国語学部の創立から成長・発展してきた過程を叙述。
3. 外国語学部 25 周年史編集委員会編『外国語学部 25 周年史 1963-1987』、南山大学
   南山大学外国語学部 25 年の歴史を叙述。
4. 南山大学オーラルヒストリー担当小委員会ほか編『私の中の南山』2001 年 3 月 22 日、南山大学
   南山大学関係者に対して行なったインタビューの記録。
5. 成瀬小四郎、佐藤一夫ほか編『南山短期大学十五年史』1982 年 10 月 10 日、南山短期大学
   南山短期大学の創立から成長・発展してきた過程を叙述。
6. 家田足穂、山田泰広、蛭田庸代編『南山短期大学三十年史』1998 年 11 月 1 日、南山短期大学
   南山短期大学の 30 年の歴史を叙述。
7. 『南山学園五十年の歩み』1982 年 10 月 30 日、学校法人南山学園
   南山学園の 50 年の歴史を主に年表で表わす。
8. リチャード・ジップル著『ヨゼフ・ライネルス師と南山中学の創立』2002 年 11 月 9 日、南山学園
   南山中学校創立に至る経緯を神言会所蔵の史料などに基づいて明らかにした論文を、南山学園創立 70 周年を機に日本語訳し刊行。
9. 青山玄著『ライネルス師とその人柄』1994 年 3 月 19 日、南山学園
   南山学園の創立者ヨゼフ・ライネルスの生涯について叙述。
10. 武内弥太郎、大嶽静男、シスタ・パウラ、井爪謙治ほか著『名古屋聖霊学園三十年史』1981 年 11 月 1 日、名古屋聖霊学園
    名古屋聖霊学園の創設から成長・発展の過程を叙述。
11. 創立 50 周年記念誌編集委員会編『写真で綴る聖霊 50 年史』1999 年 11 月 1 日、学校法人南山学園 聖霊中学校・聖霊高等学校
    名古屋聖霊短期大学の開学（1970 年）から閉学（2005 年）までを豊富な写真や史料を交え叙述。
12. 図書委員会編『名古屋聖霊短期大学二十周年誌』1990 年 11 月 1 日
    名古屋聖霊短期大学 20 年の歴史を叙述。

南山アーカイブズニュース　第２号
Nanzan Archives News

発行日　2009 年 12 月 25 日
編　集　南山大学史料室
〒 466-8673　名古屋市昭和区山里町 18
発　行　南山学園史料委員会
〒 466-0838　名古屋市昭和区五軒家町 6
印　刷　株式会社 クイックス
〒 456-0004　名古屋市熱田区桜田町 19-20